マムロガワスタディツアー

イマ、マムロガワ ガ オモシロイ

学びのしおり

シン・パワースポット

へのないざい

2024
10.12
(sat)
7:45-12:00

第１２回真室川スタディツアー「いま、真室川がおもしろい！」

真室川の宝箱編 partⅡ　シン・パワースポットへのいざない

開　講　式　次　第

会　場：真室川町役場正面玄関前
時　間：7：45～

１．開　　会
２．主催者あいさつ（教育長）
３．オリエンテーション
　(1) 事業の概要・タイムテーブル
　(2) 事務連絡
４．閉　　会

閉　講　式　次　第

会　場：真室川町役場正面玄関前
時　間：11:35～

１．開　　会
２．主催者あいさつ（教育長）
３．修了証贈呈
４．感想発表
５．閉　　会

【スタディツアーについて】

真室川町のスタディツアーにご参加いただき、誠にありがとうございます。

真室川町にはたくさんの宝物がありますが、地域の方々からは「真室川町には何もない」との声がしばしば聞かれます。子ども達は学校での「ふるさと学習」により、地域の宝物を多く学んでいます。しかし、その親・祖父母世代である大人は、真室川の本当の宝物や魅力を知らないままに生活している方が、案外いらっしゃるのではないでしょうか。そのようなことから、今回、改めて地域の宝を再発見する社会科見学を企画しました。子ども達と一緒に大人も町の良さを見つめなおすことで、「真室川町にはいいところがたくさんある」と自信を持って言える方が増えることを期待しています。

【真室川町の概要】

（令和６年９月末現在）

○人口:6,520 人　○世帯数:2,530 世帯

町のシンボル

◎町の木　「梅の木」

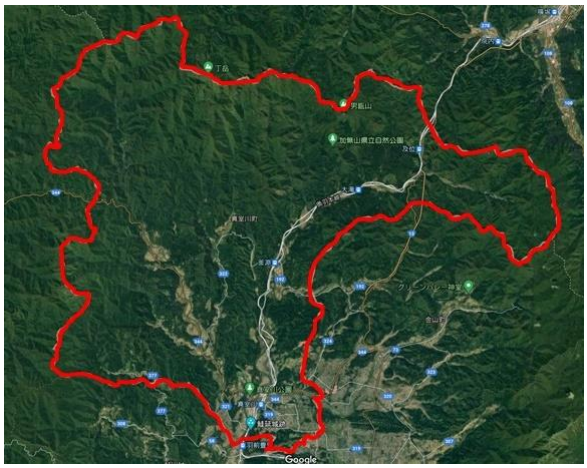
◎町の鳥　「ウグイス」

◎町の音頭　「真室川音頭」

◎町の花　「梅」

◎町の魚　「ハナカジカ」

◎町の昆虫　「ハッチョウトンボ」



地目	面積(㎢)	割合(%)
山林	295.05	78.8
田	20.61	5.5
畑	3.17	0.8
宅地	2.44	0.7
原野	9.22	2.5
その他	43.73	11.7
合計	374.22	100

(H31.1.1 時点)

真室川町は、山形県の内陸最北部に位置し、北側は秋田県に接している。

町の約 79%が山林の中山間地域であるため、古くから林業・農業が盛んである。

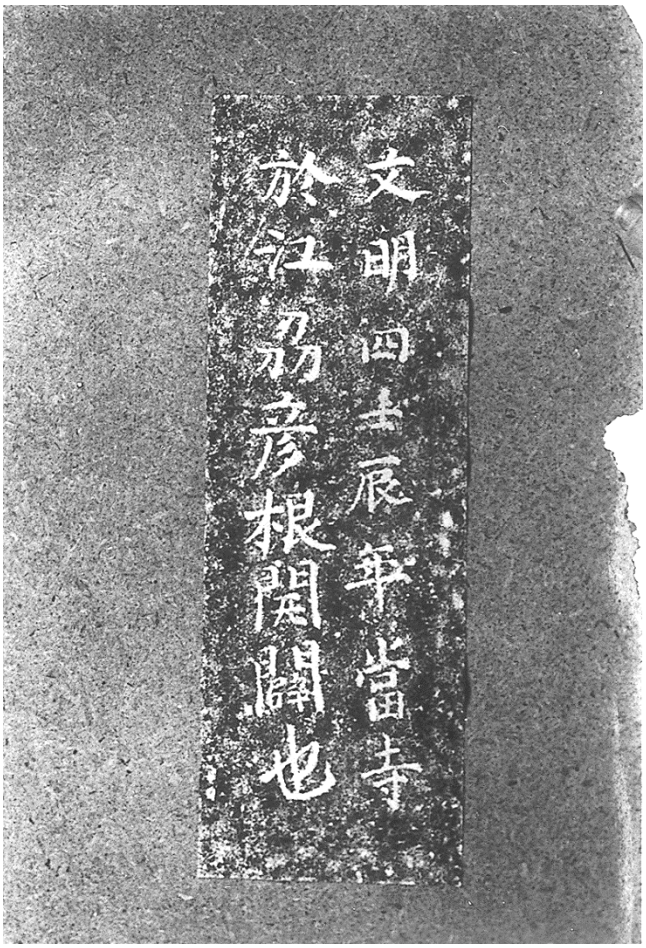
また、各地区には伝統文化が数多く継承されており、番楽・囃子・わらべ唄のほか、伝承野菜等も引き継がれている。

三弘山正源寺

曹洞宗。最上北部の鮭延郷を領した近江源氏佐々木典膳貞綱の開基で、当初は北部野田村（真室川中央公民館付近）に総国寺として建立したが、その後当地に新たに三弘山正源寺として天正18年（1590年）、鮭延家累代の菩提寺として建立した。また、開山塔銘には文明4年（1472年）に近江国彦根（滋賀県）で開山されたとあるが、鮭延城記（大正4年発行正源寺編）では、それ以上の詳記がないとしている。正源寺本堂裏手の墓地には秀綱、父貞綱、息子秀義が大木の杉木立に囲まれた中に眠っている。

本尊は釈迦如来。山形十三仏霊場四番札所（普賢菩薩）。山形百八地蔵霊場百二番霊場（水子子育地蔵）。国指定重要文化財「土偶」、町指定文化財「正源寺山門」をはじめ、多くの歴史を今に伝えている。及位地区延命寺、金山町宝円寺の本寺にあたる。

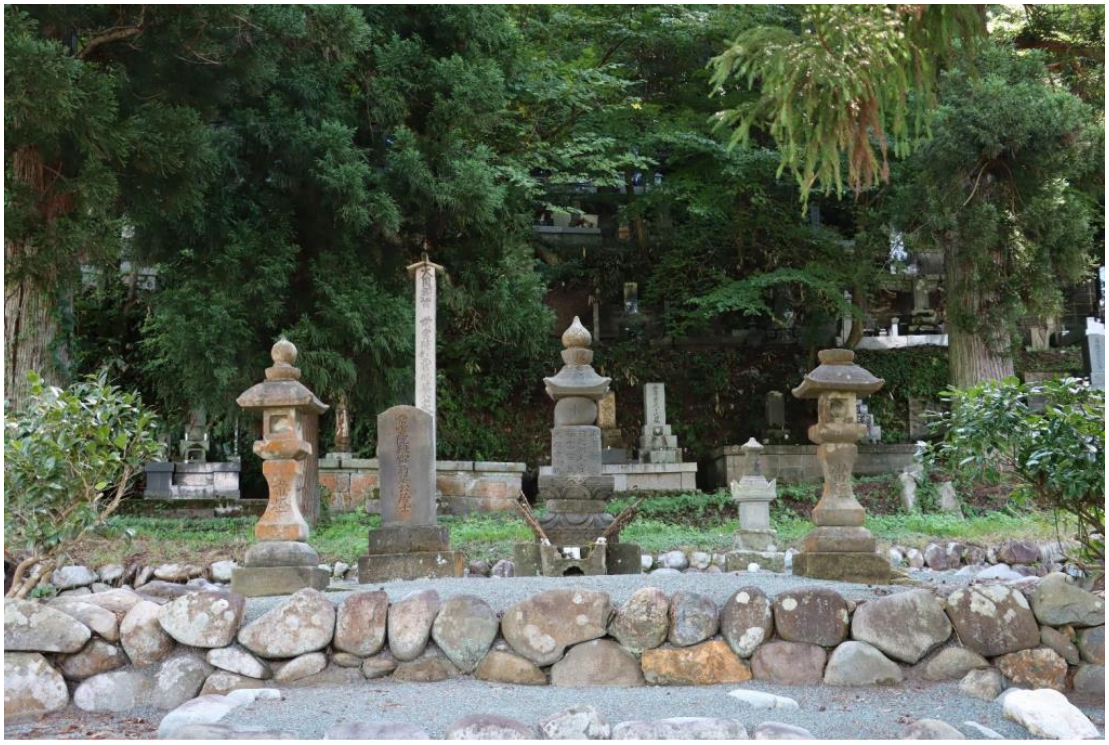
◆正源寺開山塔銘拓影(新庄市史１巻より)



文明四季辰年當寺
於江刕彦根開闢也

訳『文明４年辰年　当寺　江州(近江国）彦根において開闢(かいびゃく)なり』

◆鮭延家墓所(左から秀義、秀綱、貞綱)



正源寺のみどころ　山形十三仏霊場

十三仏（じゅうさんぶつ）は、十王（道教や仏教で、地獄で亡者の審判を行う十尊の裁判官的な尊格）をもとにして、室町時代になってから日本で考えられた冥界の審理に関わる13の仏（正確には如来と菩薩）である。また十三回の追善供養（初七日～三十三回忌）をそれぞれ司る仏様としても知られ、主に掛軸にした絵を法要等あらゆる仏事に飾る風習が伝えられる。13の仏とは、閻魔王を初めとする冥途の裁判官である十王と、その後の審理（七回忌・十三回忌・三十三回忌）を司る裁判官の本地とされる仏である。

十三仏掛軸
（オレゴン大学ジョーダン・シュニッツァー美術館）

山形十三仏霊場一覧

1番札所 六椹山宗福院（山形市）	不動明王	8番札所 庭月山月蔵院（鮭川村）	聖観世音菩薩
2番札所 大石乗舩寺（大石田町）	涅槃釈迦如来	9番札所 上町勢至堂（山形市）	得大勢至菩薩
3番札所 羽黒山龍源寺（天童市）	文殊菩薩	10 番札所 光沢山誓願寺（寒河江市）	阿弥陀如来
4番札所 三弘山正源寺（真室川町）	普賢菩薩	11番札所 臥熊山天性寺（中山町）	阿閦如来
5番札所 芳林山見性寺（最上町）	地蔵菩薩	12番札所 千巌山平泉寺（山形市）	大日如来
6番札所 弥勒山弥勒院（河北町）	弥勒菩薩	13番札所 千歳山萬松寺（山形市）	虚空蔵菩薩
7番札所 大谷山永林寺（朝日町）	薬師瑠璃光如来		

正源寺のみどころ　正源寺山門(町指定文化財)

この山門は、もとは朝日村大網の湯殿山大日坊の総門であったが、昭和 36 年に正源寺 23 世閑雲旭處和尚(かんうんきょくしょおしょう)によって正源寺に移築されたものである。高さ13m、奥行 6.1m、12脚の堂々たる楼門で、入母屋作りの大きな屋根、楼上の欄干付き回廊、花頭窓(かとうまど)などが特徴的である。材はスギである。屋根は元来萱葺きであったが、移築後、銅板葺きに改められた。江戸時代末期の建築とみられ、湯殿山信仰の盛時を偲ばせる貴重な建造物である。

　平成元年12月16日、町の文化財に指定。

高坂山神社

高坂地区に存する。創立年は不明であるが、新庄最上神社誌（昭和 61 年発行　山形県神社庁新庄最上支部編）によれば200年以上前に再建されたのではないか、とある。

町指定文化財「山神座像」が鎮座する。山の神の御神像も奉納されており、最上地方の風習「山の神勧進」の名残が感じられる。

山神座像(町指定文化財)

本像は、他の山神神像とは像容が異なり、烏帽子風の冠をかぶり、手に杓を持ち、椅子に座った姿の像である。光背に五個の梵字が見えるが、地蔵菩薩を意味する種子(しゅじ)のようである。台座には「山神宮」(さんじんぐう)の文字が刻んであり、間違いなく山の神の神像とみるべきであろう。像高 78 ㎝、台座の高さ 12.5 ㎝、桂の一木造り(いちぼくづくり)で彩色は施されていない。職業的仏師の作とは思料されない。

江戸時代の作と伝えられている。

最上地方の山の神の勧進

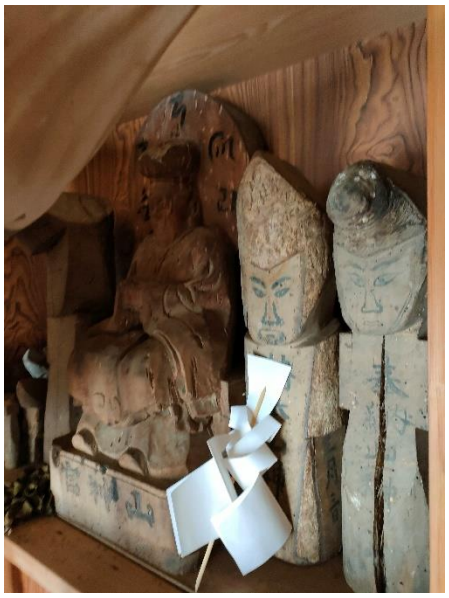
（文化庁　記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財　）

種別：風俗習慣　　選択（指定）日：平成 18 年3月

（以下　文化庁解説文）山形県北部に位置する新庄市や最上郡を含む最上地方一帯では、春先や年末の12月ころに山の神の勧進と呼ばれる山の神を祀る行事が行われている。集落の15歳以下の男子が集落の山の神社に祀られている木製の山の神の御神像を持って「ヤマノカミノカンジン」と連呼しながら集落内の各家を回り、山の神への供物である米や賽銭、菓子などを集めた後、御神像を飾ってお祀りする行事である。

　最上地方では山の神が里に降りてきて田の神になるといわれている4月2日、あるいは山の神の年越しの日である12月12日などを中心に行われている。集落内の15歳以下の男子はこの日の夜、山の神社やあらかじめ決めておいた宿に籠もり、翌日の朝、御神像を山の神社に戻して行事が終了するものであり、参加した子どものうち最年長者が一番大将、それ以下、二番大将、三番大将と役が決められ、彼らが行事一切を取り仕切るのが一般的であった。たとえば新庄市赤坂地区で行われている山の神の勧進は12月30日に行われている。以前は12月12日に行事を行っていたが、昭和50年ころから子どもが冬休みになる現在の日程で行うようになった。この行事は小学生と中学生の男子が行うもので、参加者の中で最上級生になる中学三年生が一番大将、中学二年生が二番大将、中学一年生が三番大将となって行われる。それぞれの学年に数人ずついればその全員がその役になる。一番大将が行事の一切を取り仕切ることになっており、行事の前には、その年不幸のあった家など山の神の勧進に回ってはいけない決まりになっている家を確認し、行事当日の集合場所や時間を決めて集落内に連絡してお

く。行事当日は子どもたちが集合すると山の神社に向かい、一番大将の指示で山の神を拝んだ後、祀られている山の神の御神像を持ち出す。この後それぞれが山の神の御神像を手に持って集落内の全戸を回る。回る順は毎年かわり、子どもの数が多いときには二手に分かれて回る。



高坂山神社に奉納された山の神の御神像

　各家の前にくると「山の神きました」と叫んで中に入り、「山の神の勧進、手のごけで三杯、三杯ずつで一六杯」と二回唱える。この後、米、賽銭、菓子をもらって次の家に行く。こうして全戸を回り終わると公民館に戻り、床の間に持ち回った山の神の御神像を祀り、膳を用意して供えると年少の子どもたちは家に帰り、大将たちだけが残って山の神をお祀りする。夕方、集落内の各家の大人たちが酒を入れた徳利を持ってお参りにやってくる。徳利の酒を膳のコップに移し、お賽銭を供えて拝み、子どもたちに神酒をついでもらって飲んで帰っていく。

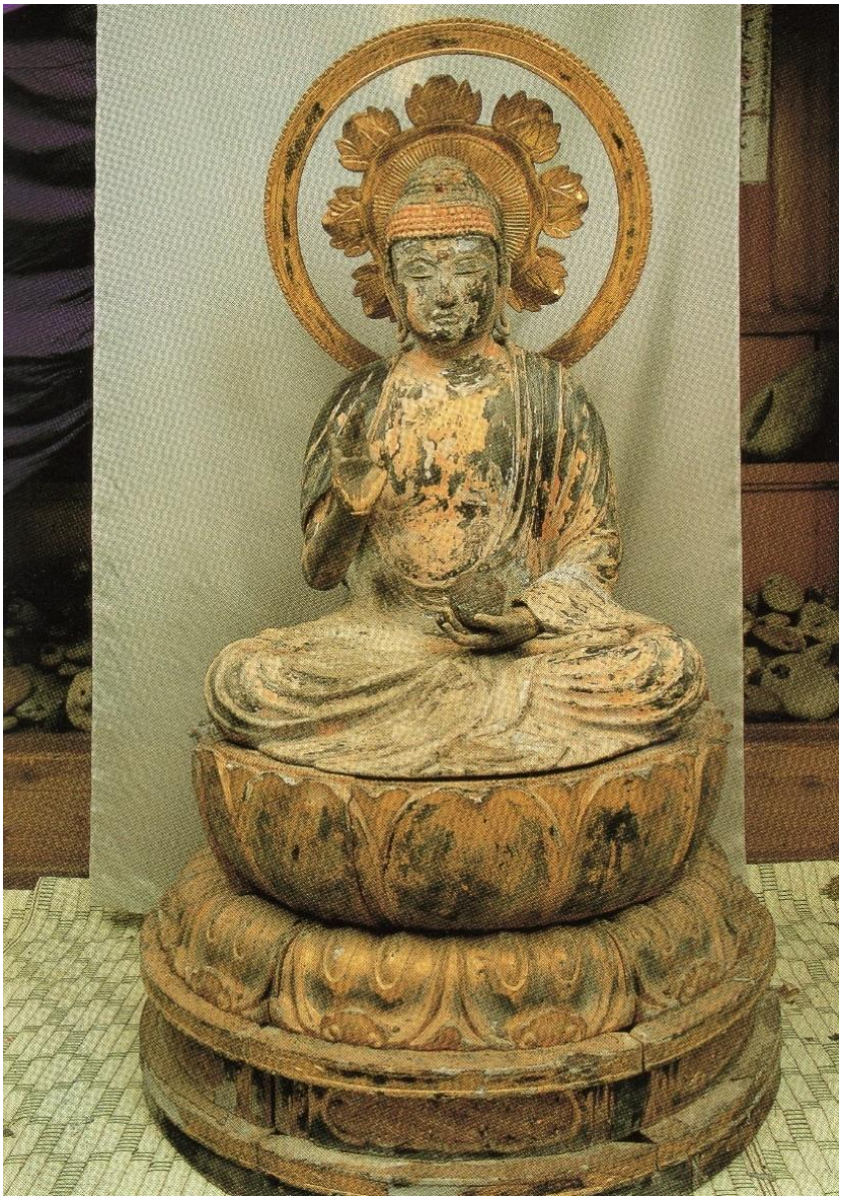
　以前は、集落のほとんどの家の大人がお参りにやってきたというが、現在では数人しかこなくなっている。大人たちのお参りがほぼ済んだ夕方6時ころになると供えていた膳を片付ける。この後、大将たちだけで山の神の御神像を持って山の神社に戻してくる。この山の神の御神像は木製で男の子が生まれた家や厄年の人がその記念に作って奉納するとされており、山の神社には数多くの手作りの御神像がおさめられている。山の神の勧進と呼ばれる行事は最上地方一帯で広く行われていたが、少子化の影響もあって行事が行われなくなったり、かつて行われていたお籠もりがなくなるなど変化してきている。

砂子沢薬師堂（旧本覚院）

　砂子沢地区古屋敷に存する薬師堂。本覚院（本覚寺とも）は葉山派の修験寺院で、元来は小国地区にあったが現在の場所に移転したといわれている。明治維新後に廃院。

　堂内には町指定文化財「木造薬師如来座像」が鎮座している。砂子沢薬師堂がある古屋敷集落北方の丘陵部は、縄文～弥生期には古屋敷遺跡があったとされ、戦国期には砂子沢館が築城されている。安楽城村誌（大正 11 年編纂）の記述によれば天台宗とあり、古屋敷が古来より鳥海山系の山脈続きであることを理由に「お峯」と呼ばれた事にちなみ、移転後は「峯本山」と号したとある。

木造薬師如来座像(町指定文化財)



砂子沢薬師堂の本尊として祀られている尊像である。像は檜材の寄木造りで像高66.1 ㎝と小柄な像であるが、つくりの優れた逸品である。面相は優美淡麗で水晶で白毫と玉眼を入れ、豊満な姿体から鎌倉時代の作とみられたが、修復調査の結果、平安時代中期の作と判明。山村には珍しいもので、おそらく中央の仏師によってこの地に移されたものであろう。中央文化の地方普及を物語る資料である。

昭和 59 年 3 月 19 日、町の文化財に指定。

木造薬師如来座像修復事業の経過

平成 24 年 6 月　町歴史民俗資料館にて企画展示

平成 27 年 4 月　修復見積書提示

平成 27 年 5 月　修復契約書締結

同　　名古屋市に移送し修復作業開始

平成 28 年 4 月　修復作業が完了し町歴史民俗資料館に到着

平成 28 年 6 月　本堂に戻る

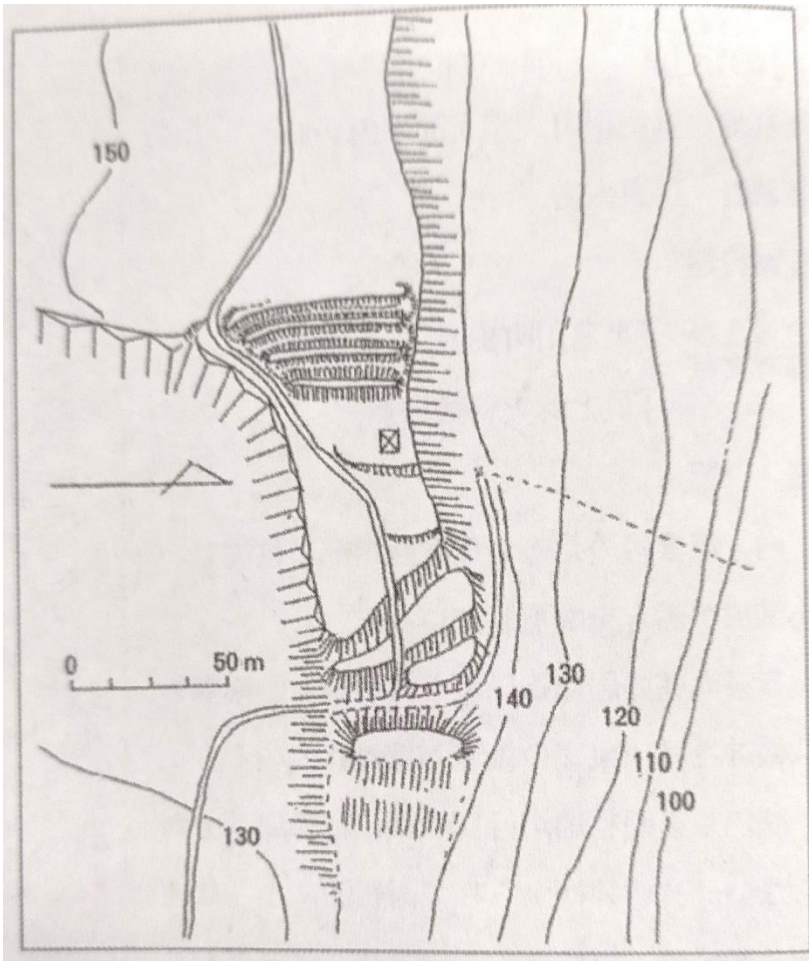
同　　修繕完成祝賀会開催

砂子沢地区での薬師堂との関わり

①元朝詣り	1月　1日	朝七時より
②八十八夜のお参り	5月　2日	地区清掃は1週間前
③地区祭り	8月15日	事前に地区一斉清掃
④二百十日のお参り	9月　1日	地区清掃は1週間前
⑤雪囲い・取り	11月初旬、4月初旬	
⑥雪下ろし	降雪状況による	

（いずれも、砂子沢区長　小松喜平氏が令和元年に作成した資料を基に一部再編し掲載）

砂子沢館



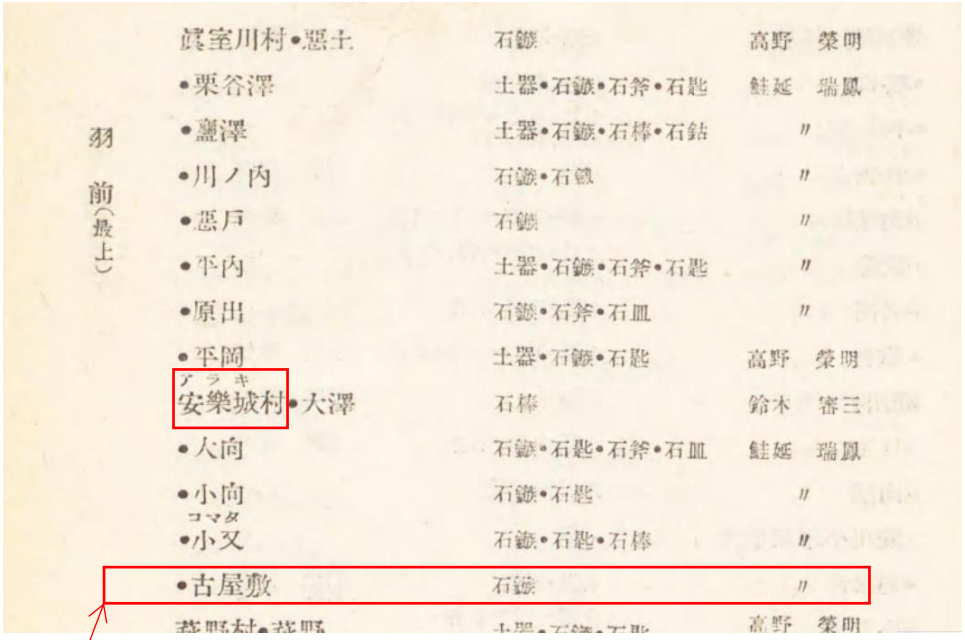
古屋敷集落の北方の丘陵東端に位置する。東に大沢川が流れている。

佐藤隼人という者が秋田から移り住み、築城したと言われている。鮭延城時代に帰農したと言われている。 主郭部の位置ははっきりしない。堀切や土塁からみて、これらに挟まれた所の平坦地であろう。より西側の土塁は四条になり、ほぼ砂子沢館略測図平行するように南北に長い。この間の堀切は三条で、横堀ともいえる。主郭部とみなす平坦地の東側に曲輪を造り、大きな堀切で遮断している。舌状丘陵を掘り削って造っており現在道路に使われている。北側斜面は絶壁に近い急斜面に、南斜面は崩壊も含めて断崖絶壁になっている。

（山形県中世城館遺跡調査報告書第３集（平成9年発行　県教育委員会編）より転載）

古屋敷遺跡

日本石器時代遺物発見地名表第5版(昭和3年発行　東京帝国大学編)に古屋敷遺跡の記載が見られる。(画像は国立国会図書館デジタルコレクションより)

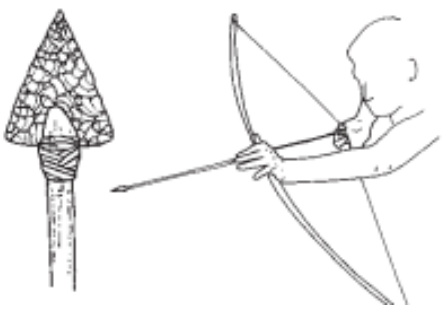


羽前(最上)	貫室川村•悪土	石鏃	高野　榮明
	•栗谷澤	土器•石鏃•石斧•石匙	鮭延　瑞鳳
	•瀧澤	土器•石鏃•石棒•石錐	〃
	•川ノ内	石鏃•石鏃	〃
	•悪戸	石鏃	〃
	•平内	土器•石鏃•石斧•石匙	〃
	•原出	石鏃•石斧•石皿	〃
	•平岡	土器•石鏃•石匙	高野　榮明
	安樂城村(アラキ)•大澤	石棒	鈴木　重三
	•大向	石鏃•石匙•石斧•石皿	鮭延　瑞鳳
	•小向	石鏃•石匙	〃
	•小又(コマタ)	石鏃•石匙•石棒	〃
	•古屋敷	石鏃	〃
	蔵野村•蔵野	土器•石鏃•石匙	高野　榮明

古屋敷　　石鏃(せきぞく)　　鮭延瑞鳳

遺物が現存しないため時期・規模は不明であるものの、砂子沢館及び周辺の畑、宅地からかつて多くの遺物が採集されたという。なお、鮭川流域は巣子、古屋敷、砂子沢、大向A及びB、上野、蓮華城と遺跡が点在しているが、蓮華城以外は全て鮭川右岸の河岸段丘上という特徴がある。

石鏃とは…縄文時代に登場した弓矢の矢柄の穂先に付けられた石器



八坂神社

新町地区に存する。創立は万治2年(1659 年)とも、大永年間(1521～1528年)とも伝えられる。「新庄領村鑑(新田本)(宝暦年間(1751～1764 年)成立)」には、新町村の項目に「堂社　牛頭天王　堂ノ下　城内六間四方」とある。のちに三蔵院(修験院真室山三蔵院大峯当山脈(新庄領村鑑))の敷地内に遷座され、大正15年に現在の場所に新築遷座された。

祭神は素盞嗚尊命(スサノオノミコト)・倉稲魂命(ウカノミタマノミコト)・菅原道真公を合祀している。

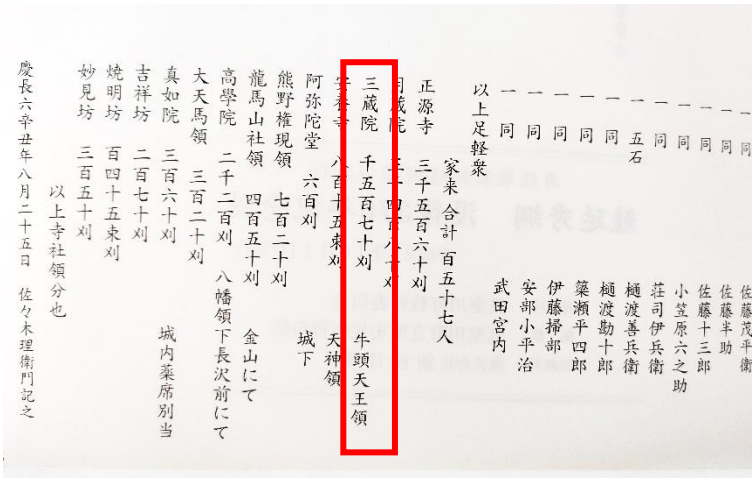
牛頭天王と素戔嗚尊

牛頭天王図
白歳(1719～1792)画
京都宝蔵寺蔵

牛頭天王(ごずてんのう)は神仏習合の神。釈迦の生誕地に因む祇園精舎(古代インド王国コーサラ国首都シュラーヴァスティー)の守護神とわれていたが、近年の研究ではインドで信仰の形跡がないことから鎌倉期以降に現れた日本独自の信仰とする学説が主流である。神仏習合思想「本地垂迹(ほんちすいじゃく)」では、薬師如来と同一視され、神道では素戔嗚尊(スサノオノミコト)と習合された。元来京都の感神院祇園社(現八坂神社)の祭神であり、疫病を鎮める除疫神として尊崇され、同社から勧請され全国に広まった。

仏教では牛頭天王に対する神仏習合信仰を「祇園信仰」といい、中世までには全国に広まり、悪疫退散・水難鎮護の神として崇められた。

慶長6年(1601年)の鮭延秀綱侍分限帳(鮭延城記より)には「三蔵院　千五百七十刈　牛頭天王領」と確認できる。



素戔嗚尊との習合については、日本書紀に素戔嗚尊が新羅の曽尸茂利/曽尸茂梨(ソシモリ)という地に高天原から追放されて降臨し、「ここにはいたくはない」と言い残し、すぐに出雲の国に渡ったとの記述があるが、この伝承に対して「ソシモリ」は「ソシマリ」「ソモリ」ともいう朝鮮語で、牛頭または牛首を意味し、朝鮮半島の各地に牛頭山という名の山や牛頭の名の付いた島がある由と関連するという説がある。

浮世絵「素戔嗚尊」
勝川春亭(？～1824) 画

時代は下り、明治維新の神仏分離によって牛頭天王と素戔嗚尊は名指しで通達され、感神院祇園社は廃寺となり八坂神社に改組された。神仏習合・本地垂迹を是としない神道家・国学者が近世以後登場したことにより、古事記・日本書紀で重要な位置を占める素戔嗚尊の習合を否定する思想が生まれたことが背景にあると思料される。

また、これらの神社は「織田信長による社寺破壊の難を免れるために、織田氏が信仰篤い牛頭天王を祀っていると称しただけのもので、本意から牛頭天王を祀ったのではない」と云う説を故意に主張したともされる。

天神信仰（菅原道真公信仰）

『北野天神縁起絵巻』菅原道真の怨霊が雷神と化す

時は平安時代。藤原時平の陰謀によって大臣の地位を追われ、大宰府（現在の福岡県太宰府市）へ左遷された菅原道真は失意のうちに没した。彼の死後すぐに、臣下の味酒安行（うまさけやすゆき）が道真を天満大自在天神（てんまんだいじざいてんじん）という神格で祀られ、清涼殿落雷事件（平安京内裏殿舎の清涼殿に落雷があり多くの死傷者が出た事件。道真の祟り・怨霊が雷神となったなどと伝えられる。）を契機に、道真の怨霊が北野の地に祀られていた火雷神と結び付けて考えられ火雷天神（からいてんじん）と呼ばれるようになり、後に火雷神は眷属として取り込まれ新たに日本太政威徳天（にほんだいじょういとくてん/にほんだじょういとくてん）などの神号が確立することにより、さらには、実道権現（じつどうごんげん）などとも呼ばれ、道真の神霊に対する信仰が天神信仰として広まった。

戦国大名などの武将達には、怨敵調伏・戦勝祈願・王城鎮護の神として信仰された。

江戸時代以降は、道真が生前優れた学者・歌人であり、弓の腕前も百発百中と文武両道の人であったことから「習い事の神」「学問の神」として広く知られるようになり盛んに信仰されるようになる。

鮭延城記には以下のとおり記載がある。

『　天満宮　真室新町に在り

慶長年中秀綱の息男秀義少にして文武の学に秀て特に天神を崇拝するや厚し秀綱北野より分坐して宮殿を営み秀義の博学ならんことを祈りけり毎歳七月二十五日祭礼を行ひ弓馬術の勝負等ありて武道を励ましけるとなん今猶附近に的場の稱ある小字を存せり　』

鮭延秀綱の子息・秀義は幼い頃から文武に秀でており、道真公への信仰も篤く、秀綱は慶長年間（1596～1605 年）に、北野天満宮から勧請し天満宮を設け秀義が博学となることを祈った。毎年7月25日に祭礼を行い、弓馬術の勝負等をして武道を奨励した。今なお付近には的場と称する小字がある。

と読める。八坂神社に菅原道真公を合祀している由来と思われる。

なお、現在の地番で「字的場」は新町地区の天神橋付近にわずかに残っている。

Memo

タイムテーブル

7:30～ 7:45	受付
7:45～ 7:55	**開講式**
7:55～ 8:00	（移動）
8:00～ 9:10	**三弘山正源寺　坐禅体験（70 分）**
9:10～ 9:40	（移動）
9:40～10:00	**高坂山神社見学（20 分）**
10:00～10:15	（移動）
10:15～10:35	**砂子沢薬師堂見学（20 分）**
10:35～10:50	（移動）
10:50～11:30	**八坂神社見学・コーヒーブレイク（40 分）**
11:30～11:35	（移動）
11:35～11:50	**役場到着・閉講式・解散**